

台湾親善交流訪問

旅行期間：平成30年12月23日～26日

学習のまとめ



平成31年2月
岡山市立芳泉中学校

1 学校指定のテーマ学習

テーマ1 台湾で訪れた場所を日本との比較で考える

Q1:江戸時代の城下町の設計と比べて、清朝統治時代の新竹市の町作りの設計にはどのような違いがあるだろうか。また、それはどのような理由からだろうか。

【生徒の優れた回答を抜粋してまとめたもの】（一部、語句等を補足しています。）

日本の城下町は領主の居城を中心^{きよじょう}に成立した都市であり、防衛都市としての色合いはやや薄くなっているが、それでも都市防衛の工夫は随所に見られる。たとえば、敵の侵攻を防ぐために、川など自然の地形を巧みに利用するとともに堀を掘り、土塁や石垣を築き、要所には時として強固な城門^{きやうこ}を設けることもあった。それに対して、清朝統治時代の新竹の町作りは、敵からの攻撃に備えて城を守るため城の周りを城壁で囲み、限られた城門からしか城内に入れないようにしてあった。

また、日本は城の守りを中心^どに考えて城周辺を土塁や堀で囲っていたが、台湾の新竹では町全体を守るために町の周囲をすべて城壁で囲っているところが違うと思う。さらに、日本の城下町は商工業を活性化させるという目的から、領主が城の周りに商人や職人を集めて住むようにさせたが、台湾の城壁で囲まれた町は、もともと町の区域全体を戦いから守るという考え方があったのだと思う。



【先生からのコメント】

一番簡単に分かる違いは、敵からの防御の仕組みとして、日本の城下町では堀が発達しましたが、清朝統治時代の町では城壁が発達したことでしょう。日本では町全体を守る城壁はあまり発達しませんでした。やはり、日本は水の豊かな国ということでしょう。

また、住民全員が城壁内にこもって籠城する防衛方法をとった場合には、町が陥落した後の混乱は日本の城が落城した時よりもはるかにひどいものになったと想像されます。

なお、江戸時代が平和な時代であったとしても、武士の使命は「戦って負けないこと」ですから、防備に力を注がなかったというようなことはないでしょう。

【生徒から寄せられた考え】（一部統合・抜粋）

- ・日本は鎖国をしていて平和だったので戦いを想定していないような作りになっているが、新竹の町は戦いを想定した作りになっている。
- ・日本の城下町は日本風の建物があり、清朝時代の町には欧米の赤煉瓦の建物があったのだろうか。
- ・江戸時代は争いが少なく、敵から身を守ることがほとんどなかったため、町を守るために作られたものは関所や川渡しくらいだが、清朝統治時代の台湾は戦乱があったせいか門や堀を作る必要があった。
- ・江戸時代の城下町は平和な時代だったので道が区画整理されているが、清朝統治時代の新竹の町は外敵から町を守るために道が曲がりくねっていて細かったのではないか。
- ・日本の城下町は領主の居城を中心^どに成立した都市で防衛都市としての色合いが薄くなっているが、都市防衛の工夫は随所に見られる。敵の侵攻を防ぐために、川などの地形を巧みに利用するとともに、堀を掘り、土塁や石垣を築き、要所には時として枡形のような強固な城門を設けることもあった。それに対

して、清朝統治時代の町の作りは、一般的に敵からの侵略に備えて城を守るため城の周りを城壁で囲み、限られた城門からしか城内に入れないようにしてある。両者の違いは、日本の城下町は、川などの地形を利用し、堀を掘ったりしていること。清の時代のものは、城壁で囲んで守る作りとなっていること。違いの理由としては、日本は、城下町というものがあつたので、堀が使われているが、清朝統治時代では、敵からの侵略を防ぐということが目的であつたため、城壁という形になつたのではないか。

- ・清朝統治時代の地域は敵からの侵略に備えた町の作りだが、江戸時代には敵からの侵略がなかつたので違いが生まれているのではないか。
- ・清朝は台湾に対してほとんど投資を行わなかつたため台湾は発展が遅れていた。日本の城下町は、領主の居城を中心に成立した町である。
- ・城下町の建物の素材は主に木などで作られているが、新竹の町はレンガを組み合わせてできている。台湾は台風などが多いため雨や風から家を守る必要があつた。
- ・日本の城下町は城の周りを掘りで囲んで外敵から守る。台湾は町の周りに城壁を作つて外敵から守る。

Q2: 城隍廟に見られる道教の信仰と日本の氏神様への信仰とを比べると、どのような共通点や相違点が見つかるだろうか。

【生徒の優れた回答を抜粋してまとめたもの】(一部、語句等を補足しています。)

城隍廟にみられる神様への信仰と日本の氏神様への信仰の共通点は、その土地に住む人々が平穩に暮らせることを祈る対象であること、土地や先祖に由来する神々も一緒に祀られていること、そして、複数の神を祀る多神教であることなどがあげられる。

逆に相違点としては、新竹市の城隍廟の方が複数の神や仏、偉人など幅広く祀られていることや、死者が生前に犯した罪を裁くという信仰や不老長寿など仙人への憧れというものも含まれることがあげられる。また、建物の色彩も台湾の方がずいぶん派手である。



【先生からのコメント】

それぞれの生徒の皆さんがよく調べて回答していると思います。

氏神様への信仰は、元来は、その土地に住んでいたつながりのある人々が共通に祀ってきた神への信仰であると考えられています。日本の神道の神々は、古い木や石、あるいは森全体などさまざまな所に宿っていることになっていて、それらの神々のイメージを像という形に表して祀らないのが普通ですし、守るべき教えというものははっきりしているわけではありません。このようにたくさんの神々を祀る日本や台湾の多神教の信仰は、キリスト教やイスラム教などの一神教のものとは、戒律(守るべき教え)の厳しさなどの点で大きく異なっており、日本や台湾の方が宗教的な許容範囲も広がっていると言えるでしょう。

なお、日本では、古来の神々を祀る神道と飛鳥時代に大陸から伝わってきた仏教と一緒に信仰されていますが、神様と仏様が同じ宗教施設の中に一緒に祀られていることは一般的ではありません。また、現在では、神様には現世の御利益をお祈りし、死後のことは仏様にお願いすることが多くなっているようです。

【生徒から寄せられた考え】（一部統合・抜粋）

- ・神道、道教ともにアジア南方の古代原始信仰に起源を持つ。神や仏にすぎないがその時々で使い分けるところに共通点がある。道教は神様と取引をし、神様とはお互いに与えられるような関係だと考える。
- ・お供え物をし参拝することで祀られている神々から恩恵を授かるという共通点がある一方で、台湾では日本ほど神への信仰はなく、いろいろな神が混じっているという相違点がある。
- ・共通点は、その地を守る神を信仰すること、相違点は道教は仙人になることが目的とされたり、無為自然がよいとされること。
- ・日本の氏神様は、同じ地域（集落）に住む人々が共同で祀る神道の神で、同じ氏神の周辺に住み、その神を信仰する者同士を氏子（うじこ）という。教典や具体的な教えはない。新竹市で訪ねた城隍廟は、都市とその住民を守護すると信じられた城隍神を祀っている。共通点は、どちらも神（実在しないもの）を信仰していることと、信仰する人々との関わりを持つ。相違点は、氏神様の信仰には決まった教えなどはないが、城隍廟には、住民を守護するという教えが存在すること。
- ・共通点は、土地や先祖に由来する神々も一緒に祀られているところで、相違点は複数の神や仏を崇拝するなど、宗教的な許容範囲が広いこと。
- ・みんなが簡単にお参りできるところが共通点で、城隍廟では、複数の神や仏を祀るなど宗教的な許容範囲が広く、さらには土地や先祖に由来する神々も一緒に祀られる信仰が見られるところが相違点か。
- ・相違点は、仏様や商売の神様、歴史上の偉人までも何でも一緒に祀られていること、複数の神や仏を崇拝するなど宗教的な許容範囲が広く、土地や先祖に由来する神々も一緒に祀られていること。
- ・土地の神様、先祖などの神々を祀るところが共通点。
- ・共通点は多神教で、相違点は氏神様がそれぞれの土地を守る土着の神様であるのに対して、台湾の道教寺院には様々な分野の神様が祀られている点。
- ・城隍神は、都市とその住民を保護すると信じられた神で、昔の中国の各都市には必ず祀られていた。氏神は日本において同じ地域に住む人々が共同で祀る神道の神のことを指す。
- ・共通点は土着信仰であること。相違点は、道教は中国で起こった生命観で、自然に依拠していること。神道は、弥生時代に日本の生命信仰に対して起こったと考えられている。
- ・共通点は神を祀っていること。氏神様は同じ地域に住む人々が共同で祀った神で、道教は都市の守護神

Q3: 特定の人物の巨大な銅像が広大な敷地に建てられる背景にはどのようなものがあるだろうか。日本の大仏とこうした指導者の銅像にはどのような違いがあるのだろうか。

【生徒の優れた回答を抜粋してまとめたもの】（一部、語句等を補足しています。）

蒋介石の巨大な銅像が造られた背景には、台湾の人々が蒋介石という個人の偉業を讃え、死後も偉人として尊敬の念を持って崇拝させようという当時の国民党政権の考え方があった。

日本の奈良の大仏は、実在した個人を崇拝するためのものではなく、「仏の力によって、国が護られ、人々が病や飢饉から逃れ穏やかに生きていけますように。」という願いが込められた宗教的なものであることが蒋介石の銅像と大きく異なる点である。



【先生からのコメント】

生徒の皆さんがまとめてきた回答はいずれもよくできていると思います。

蒋介石政権が最終的に目指していたものは、中国大陸の統治権を共産党政権の中華人民共和国から取り返す「大陸反攻」でしたから、蒋介石総統が亡くなった後も、国民党政権はその遺志を台湾の人々に明確に受け継がせるために、蒋介石を記念するモニュメントを造ったと考えられます。そういう意味では、この銅像は政治色の非常に強いものです。ちなみに蒋介石の墓地では、蒋介石の遺体が「台湾の土」になってしまわないよう、棺を床から数センチ浮かせて安置されているということです。

奈良の大仏は、当時の聖武天皇が疫病や天災などから国を護るために建てた、宗教的色彩が極めて強いものです。ただし、奈良時代の仏教は政治と強く結びついていましたから、当然政治的な要素も強かったことは疑いのない事実でしょう。

なお、奈良時代の仏教については、死後の人々を極楽浄土に導くという個人救済の考えはまだ広まっていなかったこと、お寺の役割についても、仏様に祈ること以上に、遣唐使が唐から持ち帰った経典の解釈を行うことなど学問的な側面が重要視されていたということなどを理解しておくといでしょう。

【生徒から寄せられた考え】（一部統合・抜粋）

- 日本の大仏は多くの人々が心穏やかに助け合っているようにという願いが込められている。蒋介石の銅像は、指導者個人に対する哀悼の意から建てられたのではないか。
- 巨大な銅像は個人崇拜をさせたいためであり、同時に、あがめさせて批判や反抗をさせないため。日本の大仏は、仏様にお願ひし、すぎるため。
- 台湾の指導者の銅像は、国や土地の歴史に名を残すような人を神格化してあがめ、恩恵にあずかろうとするもので、日本の大仏は人々を守ろうとして作られた。
- 日本の大仏は、病や飢饉から国を守るために造られたが、台湾の中正紀念堂に銅像がある蒋介石は歴史上の英雄である。
- この像は蒋介石を記念するためのもので、国同士の争いがあったからこの像が建てられた。
- 蒋介石は台湾で英雄視されているため銅像とされている。
- 日本の大仏は無色だが、台湾で見た宗教的な像のほとんどは色が付いていて表情なども分かりやすかった。
- 中正紀念堂は、蒋介石が死去した際に行政院によって全国民の哀悼の意を示すことを目的として造られた。蒋介石の像を守るための衛兵も配置されている。
- 台湾のものは、中国国民党のリーダー故蒋介石の業績に敬意を払ったもの。日本の大仏はご利益があると信仰されていた銅像。

Q4: 当時の日本政府が台湾統治のシンボルとなる建物に日本の伝統的な建築デザインを用いず、欧米のデザインを取り入れたのはどうしてだろうか。

【生徒の優れた回答を抜粋してまとめたもの】（一部、語句等を補足しています。）

日本が初めて獲得した海外領土ということで、台湾の人々に日本が欧米と並ぶ近代的な国家であるという威厳を示すため。

【先生からのコメント】

この問いの答えを考えるには、当時の日本の国際的な立場を理解することがポイントになります。生徒の皆さんが日本の威厳を示すという観点から答えてくれたもので概ねよいのではないのでしょうか。

明治維新以後、日本は不平等条約改正のために欧米諸国から近代国家の一員として認められるように欧米の文化を積極的に取り入れました。この傾向は建築についても同様で、ヨーロッパで流行していたデザインを取り入れた洋風の建築物も次々と建てられました。

現在でも台湾の総統府として使われている建物が台湾総督府の本庁舎として建てられたのは1919年(大正8年)のことですが、このころは、日本が第一次世界大戦の戦勝国となり、1920年には新しく誕生した国際連盟の常任理事国となって、当時の言葉で「一等国」の仲間入りを果たした時代でした。



【生徒から寄せられた考え】(一部統合・抜粋)

- ・日本で初めての植民地ということで、欧米から後れをとっていた日本が欧米と同じことができるということを示したかったからではないかと思う。
- ・欧米に対して同じくらいの力があることを示したかったから。
- ・当時の日本が欧米のまねをしたり流行に乗る必要があったから。
- ・日本が近代的な国家となった威厳を示すため。
- ・東アジアへの進出をうかがっていた欧米列強に対し、新興国の日本はいかにして国力を誇示するかという命題と向かい合っていた。そのため、総督府はあえて西洋古典様式のデザインを採用した。つまり、欧米のスタイルを踏襲しつつ、その中で自らの国威を誇示するという手法を選んだ。
- ・当時流行していたデザインを日本は取り入れた。台湾の新竹市の建築は竹を使う文化なのだが、気候に合わないため石の文化を取り入れたのかもしれない。日本の建築は木の文化だが、気候に合わないので取り入れられなかった。
- ・欧米のデザインは、当時としてはとても価値のあるものだったから。
- ・日本の伝統的なデザインを取り入れるのに抵抗があったから。
- ・辰野金吾という建築家が好んでいた様式を取り入れた。
- ・日本統治時代における台湾の西洋式建築の発展は三段階に分かれ、アール・デコ様式はその三段階目に発展した。

Q5:日本国内で廃鉱となった鉱山周辺の町並みや土地を保存整備し、観光資源として再開発しているところを調べてみよう。

【生徒の優れた回答を抜粋してまとめたもの】(一部、語句等を補足しています。)

- ・石見銀山(島根県)・・・「石見銀山とその文化的景観」が世界遺産に登録されている。
- ・足尾銅山(栃木県)・・・400年の歴史を持ち、閉山後坑内の一部が開放され、トロッコ電車や、敷地内にはレストハウスもあり、観光スポットとなっている。
- ・別子銅山(愛媛県)・・・鉱山を開いたときから閉山するまでの時代の移り変わりがよく分かるものがたくさん残されており、観光資源として活用されている。

・その他

吹屋鉾山(岡山県高梁市)、柵原鉾山(岡山県久米郡美咲町)、生野銀山(兵庫県)、マ
イランド尾去沢(秋田県鹿角市)、高玉金山(福島県郡山市)、栃原金山(茨城県久慈郡
大子町)、長登銅山(山口県美祢市)など。

【先生からのコメント】

生徒の皆さんは、それぞれ各地の廃鉾となった鉾山
をよく調べていますね。炭鉾も含めると、長崎県のいわ
ゆる「軍艦島」(端島:長崎市)も当てはまるでしょう。

石見銀山は、その優れた銀の産出量のために、戦国
時代には中国地方の戦国大名(大内氏や毛利氏など)
の間で争奪戦が繰り広げられ、江戸時代には江戸幕府
が天領として直接支配した特に重要な鉾山でした。

海外に目を向けると17世紀から19世紀にかけて世界
最大の銀の産出量を誇ったメキシコでは、宗教的な信仰心により鉾山からの巨万の富が
惜しげもなくカトリック教会に寄付されたため、日本や台湾の鉾山町とは比べものにならない
豪華な町並みが整備されました。ネットの画像検索でサカテカス、グアナファトなど世界
遺産に指定されているスペイン植民地時代のメキシコの鉾山都市について調べてみてくだ
さい。その町並みや教会の豪華さにきっと驚かされると思います。

なお、江戸時代の日本における銀の精錬技術は非常に優れており、世界標準のメキシ
コ銀貨の銀含有量が約86%であったのに対して、日本の銀貨は銀の含有量が約91%も
あったため、開国後は大量の日本銀が海外に流出したと言われています。



テーマ2 ホームステイでホストファミリーとの交流で気がついたこと、学んだことをまとめてみよう。

- ・ ホストファミリーとはラインで今でもやりとりをしていて、とても明るく話してくれる。
- ・ 食の文化が日本と違った。日本では和食や洋食が両方出るけど、台湾では油っこいものや、唐辛子など辛いものがたくさん出されていた。
- ・ もっと相手と話せるように英語を頑張りたいと思った。
- ・ 言葉や文化の理解をして、これからはいろんな国の人と仲良くなりたい。
- ・ ホームステイ先の人はとても歓迎してくれて、夜にショッピングモールに連れて行ってもらったりした。
- ・ 朝ご飯に豆乳を飲むということに驚いたが、日本とそんなに変わらないと思った。
- ・ ブタの血のケーキを食べたがおいしかった。トマトが一番おいしかった。
- ・ 学校で学習している英語力さえあれば外国へ行っても互いに意思疎通が可能であること。
- ・ 翻訳アプリの有効性。家の玄関の前に靴を脱いで置いていたこと。



- ・ ホストファミリーはすごくフレンドリー。道端の人に普通に話しかけていた。自分たちとは初対面にもかかわらず、緊張した素振りをみせなかった。英語がすごく上手。家は縦長で、いくつも連なっていた。5階建てで、家によってはエレベーターもあったらしい。
- ・ ホストファミリーからは、日本で言う「おせち」のような台湾の食べ物など、食べ物の文化についていろいろと教えてもらった。また、食事をするときは全員がそろってから食べるのではなく、一人一人席に着いた人から食べ始めるという文化もあることが分かった。
- ・ ホストファミリーの家庭の皆さんが優しくしてくれたこと。
- ・ 最初は中国語が話せないのでコミュニケーションができるか心配だったけど、身振り手振りで頑張って伝えようとしたら伝わることが分かった。
- ・ 違う国の同士だと話す言葉が全く違うので、世界共通の英語は大切だと思いました。
- ・ 台湾の人とも簡単な英語やジェスチャーで通じた。(台湾の人にとって自分たちは)外国人なのに、こちらが驚くほど歓迎してくれた。
- ・ テレビなどを見ると、日本の番組も少なからずあった。
- ・ 台湾の人たちは、日本人を迎え入れてくれる優しい人がたくさんいた。ホストファミリーの家では台湾の人たちがよく食べるものやその食べ方などを教えてもらった。
- ・ お年寄りの方は日本語が話せる人がほとんどだった。言葉が通じないのでスマホの機能を最大限に使ってコミュニケーションをした。
- ・ 家は駐車場合わせて4階だった。室内が土足禁止で意外だった。トイレではトイレットペーパーは流さずゴミ箱に捨てる。箸が少し重たくて長かった。人を招待する時の食事は相手が満腹になるまで出される。



テーマ3 光復高級中学の施設見学や交流会で気がついたことをまとめてみよう。

- ・ 芳泉中学校とは違う校舎の大きさと豪華さにはびっくりした。教室では授業中に先生がマイクを使って説明していたり、日本と少し違うところがあった。
- ・ 歓迎会の時に応用外国語科の生徒が日本語で話してくれたのには驚いた。親日の国だからこそ、そうなのだと思う。
- ・ みんなが歓迎してくれて嬉しかった。また、日本人が外国人を見たときの「外国の人だ。」みたいな目を誰もしなかった。アジアの人だから？
- ・ 学校のチャイムが日本と同じ。生徒が全体的に日本語を話すことができる。
- ・ 学校内に公的な検定の試験会場があるくらいレベルが高い。
- ・ とても学校が広いこと。応用外国語学科日本語コースの方が、たくさんのことを伝えようとしてくださったこと。
- ・ 光復高級中学校の皆さんが、日本語を話せていて、外国語の学習が進んでいると思っ

た。授業を見学した時、英語の授業では、黒板に映像を映して授業をしていた。教科書には、映画の内容が一部あったりした。軍人が校内にいた。図書館には、日本の漫画の台湾バージョンがあった。



- ・ 図書館が広くてびっくりした。日本では専用シューズに履き替える体育館の使用が土足のままだったことにも驚いた。また、学校が広くてすごいと思った。交流会では先生がマイクを付けているところが日本と違うと思った。
- ・ 学校がとても大きくて学校内には食堂や自分たちが作ったものが置ける場所があったりして、とにかくすごかったです。
- ・ 日本の学校より規模が大きくて生徒数がとても多くてびっくりした。台湾の生徒は日本の生徒よりも積極的に話しかけたり、自分の意見を恥ずかしがらずに発言していた。
- ・ 全校生徒が多いため、施設は広大で設備などもちゃんとしていた。
- ・ とてもフレンドリーに接してくれて話しやすかった。日本の学校よりもきれいな施設だった。日本語をたくさん使って話してくれて分かりやすかった。積極的に交流してくれた。
- ・ みんな日本に関心を持っていたこと。ある生徒は通訳になりたいという立派な夢を持っていた。
- ・ 学校の建物が大きくて部活動がたくさんあった。芳泉中の訪問団を優しくにぎやかに迎え入れてくれた。日本語がしゃべれる人も何人かいた。
- ・ 高校生からは日本にはない「国防」という授業があることに驚いた。日本語の単語を並べていって、一生懸命に話をしてくれようとした。いろいろな学部があって自分のしたいことが見付きそうだなと思った。
- ・ 自転車を見なかった。学校は土足だった。ほとんど英語での会話だった。英語は世界の共通語だと思った。

2 個人で設定する探究的テーマ学習 — 個別の調べ学習についての学びをまとめてみよう。

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校の作りと生活スケジュール」 夜遅くまで授業が行われていた。学校の作りが日本と全然違って、ATMやコンビニ、食堂がある。教室が広い。 (中田 彩子) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日本のアニメに対する台湾の人々の反応」 町中にはほとんどなかったが、交流会で仲良くなった人たちは日本のアニメをよく知っていた。台湾でもドラえもんやコナンといった日本でも人気のあるアニメはやはり人気があった。珍しいアニメもあった。 (星島 大稀) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 「食べることに関する礼儀作法」 箸を持ったまま他の動作をしても大丈夫。刺し箸もOK。かき込み箸OK。はさみ箸OK。ドリンクが入らないときにはコップを満タンのままにしておく。肩書きが上の人や年長者より先に食べない。食べきれないときは残す。 (奥山 貫士) |

・「台湾のスイーツや有名な料理について」

台湾に行く前のイメージは、雑誌やインターネットでいろいろ調べているとタピオカジュースやスイーツや麻婆豆腐などで、とても楽しみにして行きました。実際に行ってみて、想像以上に辛く、脂っぽいものも多く、すべて残さずに食べることができませんでした。でも、トマトやフルーツなどの野菜や果実はとてもおいしかったです。日本と台湾の食文化の違いを知って、まだまだ私の知らない食べ物があるのかなと思いました。

また、今回はあまり時間がなかったけれど、もっと現地の人が行くようなスーパーや市場に行ってもどのような食べ物売っているのかなど、現地の人と話したり見たりして、もっと学びたいと思いました。今は辛く感じているものも、大人になったらおいしく感じるかもしれないので、必ずまた台湾に行きたいと思います。 (小野 友菜)

・「台湾と日本の暮らしの違いについて」

一軒家が少なく、駐車場から直接家にあがる。トイレトペーパーを流してはいけない。浴槽がない。家の床が木ではない。TVのチャンネルが多い。(ホテルでは50近くあった。)出店が多い。日本では台湾の商品が少ないが、台湾では日本の商品が多く売られていた。IT企業が進んでいても、昔からのものもよくみかけ、歴史を感じた。バイクが多かった。夜でも明るかった。料理のクセが強く、店を出てくる飲み物はジャスミンティーで、冷たくなかったので辛い食べ物がより辛く感じた。 (滝川 遥貴)

・「台湾の食文化について」

台湾では日本でいう正月みたいなイベントが2月下旬くらいに行われていて、それを「旧正月」というが、そのときに「おせち」みたいなものを食べるらしい。その定番メニューは、佛跳牆、年年有魚、雞湯、餃子、蘿蔔糕、年糕發糕である。 (寶永 楓)

・「台湾の食文化について」

台湾の食べ物には香辛料が使われていたので、僕は苦手でした。 (早瀬 真平)

・「食文化の違いについて」

○台湾の食事は、日本食に比べて香辛料がとても効いていて、とても辛かった。

○食事をするときのテーブルが円卓だったのは、中華料理は大勢で楽しくにぎやかに食べるからだと分かった。

○台湾では食事の時に必ずジャスミンティーが出た。中華料理は油っこいので食事中に飲むと脂肪燃焼効果があるようだ。 (宮原 健)



・「台湾と日本の食べ物の違い」

日本よりも八角などの香辛料をたくさん使った料理だった。どの料理も大皿にたくさん盛られてきた。 (平賀 柳之介)

| |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・「台湾の文化」</p> <p>台湾では古くからの文化がとても大切にされていたと同時に、新しいものにも興味を持っている人が多かった。学校では、授業を受けているときにうるさくしている人はほとんどいなかった。とても優しく親しみやすかった。食べものについては、香辛料が多く入っていて慣れていないので食べるのに苦戦した。日本は素材そのものの味を大切にす文化なので、台湾の香辛料の多さに驚いた。飲み物は熱くて、最初は全く飲むことができなかつた。</p> <p style="text-align: right;">（長谷川 将大）</p> |
| <p>・「台湾の食べ物について」</p> <p>北京料理・・・庶民の料理は味付けが濃いめ。素材の味や香りを重視している。 上海料理・・・魚介類が食材としてよく用いられる。味付けは濃く、油っこく甘辛い。 四川料理・・・唐辛子などの香辛料を多く用いる。とても辛いものが多い。 広東料理・・・中国料理の代表格で、食材のレパートリーが豊富。</p> <p style="text-align: right;">（佐藤 心愛）</p> |
| <p>・「災害の頻度や規模の大きさなど」</p> <p>台湾では1958年から2006年までの間に186回の台風、36回の洪水、22回の地震、その他17回の自然災害が発生している。これらによって、6,115人が死亡、1,649人が行方不明、25,022人が負傷し、541,027軒の住宅が倒壊した。</p> <p style="text-align: right;">（川淵 咲佳）</p> |
| <p>・「台湾と日本の建築や食べ物の違い」</p> <p>台湾の歴史的な建築物を見ていくと、色や形が市街地の建物とは違っていた。また、食べ物は、日本のものと違ってスパイスが効いていて味のバリエーションが多かった。</p> <p style="text-align: right;">（國富 貫太郎）</p> |
| <p>・「日本と台湾の文化の違い」</p> <p>日本は出された料理を残さず食べることが礼儀だけど、台湾は全部食べると足りていないと思われる。こちらの方からお腹いっぱいだと伝えないといけない。</p> <p style="text-align: right;">（小坂 悠）</p> |

3 台湾でお世話になった光復高級中学・高校の先生や生徒の皆さんへのお礼の言葉

| |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・ 皆さん、ありがとうございました。皆さんが明るく楽しい歓迎会を開いて歓迎してくださったので、とても楽しく、また有意義な時間になりました。とても嬉しかったです。</p> <p style="text-align: right;">（中田 彩子）</p> |
| <p>・ このたびの交流会では熱烈な歓迎をしてくださりありがとうございました。学校内の施設等の見学の時には親切、丁寧に説明していただきとても感謝しています。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">（星島 大稀）</p> |
| <p>・ 立派な歓迎式典を開いてくださったり、交流会や実際の学級にも参加させてくださったり、本当に楽しかったです。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">（奥山 貫士）</p> |

・ 歓迎会では応用外国語科の人が日本語で迎えてくれてとてもびっくりしました。授業を受けたときは芳泉中の人も参加させてくれてとても嬉しかったです。他の国の人といっしょに授業を受けるのはとても新鮮で面白かったです。ありがとうございました。

(小野 友菜)

・ 体育館に入る時、日本語で挨拶をしてくださり、ありがとうございました。また、ダンスなどのパフォーマンスも素晴らしかったです。お土産もくださってありがとうございます。私たちのような外国人でも優しく受け入れてくれて、とても居心地がよかったです。本当にありがとうございました。

(滝川 遥貴)



・ このたびは光復高級中学・高校の先生方や生徒の皆さん、本当にお世話になりました。バスを降りる前から出迎えの準備をしてくださったり、優しく接してくださったり本当に台湾の皆さんの心温かさを感じられて、最初ビクビクしていた私もどんどん緊張がときほぐれていきました。ありがとうございました。

(寶永 楓)

・ 光復高級中学・高校の皆さんにはとても優しくしていただいてとても嬉しかったです。ありがとうございました。

(早瀬 真平)

・ 僕たちを盛大に歓迎してくださり、パフォーマンスや授業での交流などがとても楽しかったです。ありがとうございました。

(宮原 健)

・ とても楽しかったです。言葉が伝えられない中で、必死に伝えようとしてくれてすごく嬉しかったです。今回お世話になってとても勉強になりました。本当にありがとうございました。

(國富 貴太郎)

・ 光復高級中学の生徒の皆さん、とても歓迎してくれてありがとうございました。積極的に話してくれたおかげでとても話がしやすかったです。台湾に行ったらまた皆さんと会いたいです。

(平賀 柳之介)

・ 光復高級中学の皆さん、外国でなにかと不安だった私たちを素晴らしいパフォーマンスで迎えてくれて本当にありがとうございました。みんな優しく、とても嬉しかったです。「あいいうえお」を書いてあげると、喜んでくれた生徒もいて、日本に関心があることが分かってとても嬉しかったです。

(長谷川 将大)

・ 私たち訪問団が台湾を訪問したときに優しくにぎやかに迎え入れていただいたり、楽しい交流会を用意してくださってありがとうございました。また会えることを楽しみにしています。

(佐藤 心愛)

・ 光復高級中学・高校の先生や生徒の皆さん、私たちを歓迎してくださってありがとうございました。ほとんどの生徒さんが積極的に話しかけてくれたので、とても楽しい時間を過ごせました。また、私たちの学校に遊びに来てください。（川淵 咲佳）

・ みんなが歓迎してくれているのがわかって嬉しかったです。台湾の文化を中心にたくさんのお話を教えてくれてとても勉強になりました。（小坂 悠）

4 ホームステイでお世話になったホストファミリーと生徒の皆さんへのお礼の言葉

・ とても楽しい時間を過ごすことができました。お土産もおいしかったです。大人になったら台湾に行くという新しい目標ができました。本当にありがとうございました。（中田 彩子）



・ 今回ホームステイ先として受け入れてくださりありがとうございました。私にとって初めてのホームステイなので、言葉が通じない中で「どのように会話をすればよいか」、「どのような話をすればよいか」と、とても緊張していました。そんな中で優しく気軽に接していただいて気が楽になりました。一日お世話になりました。（星島 大稀）

・ いっしょにコミュニケーションをとってくださったり、伝えたいことを感じ取ってもらったり大変だったと思います。でも、話を熱心に聞いてくださりありがとうございました。また、私たちのために、部屋を空けてくださったり、一緒に訪ねる台湾の観光スポットやお店をリストアップしてくださったりと、とても生活しやすかったです。本当にありがとうございました。（奥山 貫士）

・ ホストファミリーには夜にデパートや屋台に連れて行ってもらったりしてとても楽しかったです。台湾の生徒の皆さんといっしょに授業を受けたり、私の調べるテーマに関して、おすすめの料理を教えてもらったりして、とても楽しい時間が過ごせました。台湾に行く前からラインのやりとりをして、新しい台湾の友達もできました。英語の勉強にもなるし外国の人とかかわることができて本当に貴重な体験をすることができました。これからもよろしくお願いします。（小野 友菜）

・ ホームステイ先では、お風呂のことなど日常的なことを気にかけてくださり、ありがとうございました。ホームステイ先で優しく接していただき、台湾という異国の地でも、安心して過ごすことができました。そして、台湾という国が大好きになりました。また台湾にいきたいです。その時が訪れたら是非会いましょう。本当にありがとうございました。（滝川 遥貴）

| |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ホストファミリーと生徒の皆さん、今回は私を自宅に泊めてくださったりして本当にありがとうございました。最初はコミュニケーションが取れるかどうか不安だったのですが、笑顔でしかも英語で話しかけてくださったおかげで、私も安心して話しかけることができました。それに食べ物などいっぱいのおもてなしを受けて本当にありがとうございました。 (寶永 楓) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ホストファミリーの皆さんにはとてもお世話になりました。ジュースを買ってもらったり、ボウリングに連れて行ってもらったり、見ず知らずの僕にここまで優しくしてもらって本当に嬉しかったです。ありがとうございました。 (早瀬 真平) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ たった一日だったけれど、僕をいろいろなところに連れて行ってくれてありがとうございました。これからもずっと仲良くしてほしいです。また、日本にも遊びに来てください。 Thank you for everything. I had a good time. (宮原 健) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初は緊張していてあまり話せなかったけど、あとから話してきてくれたのでとても楽しくなりました。遅い時間にもかかわらず外に出ていい景色の所に連れて行ってもらいとてもよい経験になりました。本当に楽しかったです。 (國富 貫太郎) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ホストファミリーの家の方、いろいろなところに連れて行ってくれてありがとうございました。とても積極的にいろいろな説明をしていただいて本当にありがとうございました。また皆さんと会いに台湾に行きたいです。 (平賀 柳之介) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ホストファミリーの皆さん、このたびはとても短い期間でしたが様々な体験をすることができました。これからもメールを送ったりして台湾について学んでいきたいと思えます。ありがとうございました。 (長谷川 将大) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜はとてもおいしいご飯を食べさせていただき、ありがとうございました。たくさんのお土産も買っていただいてありがとうございました。とても楽しかったです。(佐藤 心愛) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 約半日という短い期間でしたが、レストランや新竹市内の観光名所に連れて行ってくださり、ありがとうございました。言葉が伝わらないので、身振り手振りで伝えようとしてくれたことがとても嬉しかったです。普通ではできない経験ができたので一生忘れられない思い出になりました。本当にありがとうございました。 (川淵 咲佳) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ホストファミリーの皆さん一泊お世話になりました。夜は外に連れて行ってもらって台湾の美味しい食べ物をご馳走になった上、家でも料理をご馳走になりました。特にタピオカジュース、小籠包が美味しかったです。思うように英語が使えず、たくさんお話しすることはできなかったけど、ジェスチャーなどを交えて伝えてくれて分かりやすかったです。ありがとうございました。 (小坂 悠) |



新竹市教育処表敬訪問の様子(H30.12.25)



中正紀念堂での集合写真(H30.12.25)